

小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
魚の卵の成長 / 理解シート

マンボウ、フナ、トゲウオの中で、^{さんらん}産卵数が多いのはどれ



いちばん多いのはマンボウで3～7億個、次はフナで4～8万個、トゲウオは400～1200個といわれているよ。

親にまで生きのびる割合が小さい魚ほど、産むたまごの数は多くなる

魚の中でいちばん産卵数が多いのはマンボウで、たまごの数は3～7億個といわれています。これだけたくさんのたまごが全部親にまで育ったら、海の中はマンボウだらけになりそうです。でも、そうならないのは、たまごや子魚のときに、ほかの魚に食われたりして、親になるまで生き残る数が少ないからです。

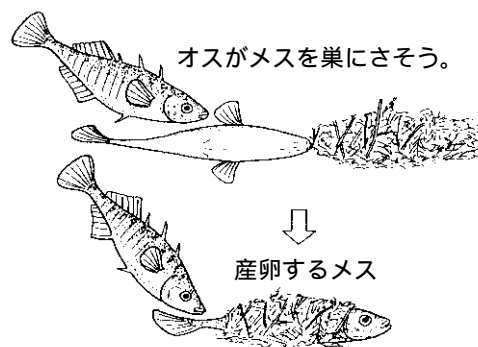
フナのなかまは、種類が多く、体の大きさもかなりちがいます。産むたまごの数も体の大きさによってちがっていて、ふつうの大きさのフナなら4～8万個、体長が30cmもあるような大型のフナなら15万個も産むことがあるそうです。

親が世話をして子魚が生き残る割合が多い魚は、たまごの数が少ない

トゲウオは、オスがすなやどろがまじった川底や、水面近くの水草のくき（種類によってちがう）に、産卵のための巣を作って、メスをさそうので有名です。

メスが巣の中に産卵すると、オスは精子をふりかけ、その後は、たまごがふ化して自分でえさをとって生きられるようになるまで、巣を守り、子育てをします。オスはたまごにえらで酸素を送り、ふ化した子魚が巣の外に出てえさを食べるときも、近くで敵がこないように守ってやります。

このようにして、親まで育つ割合が大きいトゲウオのたまごの数は、400～1200個と、魚の中ではとても少ないほうです。



トゲウオ（イトヨ）の産卵と巣